

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495100040	事業の開始年月日	平成25年9月1日	
		指定年月日		
法人名	特定非営利活動法人 楽			
事業所名	サテライトくじら雲			
所在地	(〒212-0055)			
	神奈川県川崎市幸区南加瀬 5-32-8			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	15名	
		通い定員	9名	
		宿泊定員	3名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成27年6月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>近くには川や畑があり、静かな環境の中にある。天気の良い日には土手に出ると綺麗な富士山が眺められ、散歩コースになっている。事業所は民家を改装し利用しており、家庭的な雰囲気。ウッドデッキもあり、草花を植えたり、野菜を育て楽しんでいる。</p> <p>男性利用者が多いことが特徴。看板作りや鉢植え台の製作などの活動もしている。利用者様ひとりひとりに合わせたケアを大切にしており、その方のやりたいこと、好きなことを大切に日々の活動を考えている。</p> <p>これから春を迎え風がゆるむ頃に向けて、鶴見川での魚釣りや土手の清掃活動等にも取り組みたい。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成27年3月16日	評価機関 評価決定日	平成27年6月8日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、東急東横線元住吉駅からバスで約10分の「南加瀬交番前」バス停から徒歩10分ほどの鶴見川に近い住宅地にある。建物は民家を改造したもので、本体事業所「ひつじ雲」のサテライト事業所である。1階に広いリビング、厨房、トイレ2か所がある。リビングは南向きで窓が広く採光が良い。掃き出しからウッドデッキに通じており、季節の花や野菜のプランターが並び、袋で栽培できるジャガイモや大根を育てている。2階は、浴室、トイレ、泊まりの部屋2室などが配置され、階段と室内昇降機によって行き来できる。リビングを仕切って泊まりの部屋にすることができる。現在、泊まりのサービスは週2回利用する方が1名である。</p> <p>事業所周辺は、南側に鶴見川が流れ堤防に広い遊歩道があり、天気の良い日は散歩を楽しむことができる。事業所は袋小路の奥にあり車の通行がないので、静かで安全な環境にある。徒歩10分ほどの川崎街道には大型ショッピングセンターやコンビニエンスストア、レストランなどが立ち並び、買い物や外食を楽しむことができる。</p> <p><b>【利用者本位のサービス】</b> くじら雲は、サテライト事業所の特徴を生かして設備や人材を本体事業所と共有している。介護の職歴が長く認知症対応型共同生活介護の管理職の経験もあるケアマネジャーが管理者を補佐している。訪問時には、リビングは活気にあふれ、利用者と職員がテーブルを囲んで笑顔で言葉を交わし交流していた。</p> <p>利用者の主体性を尊重し、木工作业や食事の準備など、好きなことをしたりこれまでの経験を発揮できるような場を設けている。散歩の際には、職員と利用者が一緒に吸殻やゴミを片付けるなど地域に貢献している。ボランティアのような気分で通いを楽しみにしている方もいる。</p> <p>職員同士の連携もよく、手の足りないときはすかさずフォローして、いつでも利用者の要望や意向に対応できるように、気配りをしてサービスを提供している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サテライトくじら雲
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議等で理念について話し合いを持つこともあり、常に念頭におきながら実践につなげるようにしている。	理念は本体事業所と同じで、利用者個々の思いを大切にすることに特に重点を置いている。何事も一方的に押し付けるのではなく、利用者が自分の意思で行動することを支援している。得意なことを活かして活動し、ボランティアのような気持ちで通っている方もいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りへの参加や、年に一度、事業所で餅つきを開催し地域の方も招き交流している。	町内会に加入して地域の夏祭りなどに参加している。職員と利用者が清掃用具を持参して近くの堤防などの清掃を行っている。毎年餅つき大会を行い、近所の子供たちや利用者の孫なども参加している。月2回、楽器演奏のボランティアが来訪し、演奏したり利用者と一緒に歌ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で話をすることはあるが、地域の人に向けての発信はまだ不十分である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役所、地域包括、町内会長、民生委員の方々の参加もあり、意見交換をしている。	2か月ごとに運営推進会議を行っている。参加者は地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族である。区役所職員が参加することもある。事業所の運営や業務、利用状況の報告と参加者との意見交換を行っている。	運営推進会議で、運営や業務、利用状況の報告に加えてサービスの提供などについても説明し、参加者から評価を受けるとともに必要な要望・助言を聞く機会を設けることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者や地域に住む高齢者の方についての相談をし、一緒に対応に取り組んでいる。	幸区高齢障害支援課とは運営について意見交換などを行っている。生活保護課とは生活保護費受給者の事務代行や手続きなどで連携している。地域包括支援センターが行う防災マップ作成や認知症研修などに職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で、身体拘束についての研修を行っている。玄関や窓の施錠も含め、身体拘束はおこなっていない。	運営規定などに身体拘束排除について記載し、契約時に説明している。職員会議で研修したり、言葉による拘束を行わないよう説明している。車椅子の方も、できるだけ椅子に座ってもらっている。玄関は施錠せず、ドアの開閉時は鈴の音で分かる仕組みになっている。利用者の不意な外出には、職員が付き添って安全に気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待及び身体拘束は一切行わないという方向で、マニュアルも配置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解に至る学びはこれからである。今後、学ぶ時間と話し合う時間をとり、活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員全員で情報を共有し、利用者への理解を深め、説明できるような体制をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時や家族と会う機会に、話しやすい環境をつくり、意見を頂き、職員が共有するようになっている。	家族の意見や要望は、通いの送迎時に話を聞いたり、連絡帳で意見交換して把握している。運営推進会議でも情報提供と意見聴取を行っている。生活保護受給者の暮らしの状況や思いを汲み取って、泊まり料金を半額に変更した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	くじら雲が発展、質の向上につながるように職員に意見を求める努力はしている。まだ充分とは言えない。	管理者は、毎月の職員会議で人事や利用者の情報を提供し、職員から意見や提案が活発に出るように議事進行している。電車に乗りたいという利用者の希望を職員が聞き取り、会議で提案して川崎大師に参拝に行ったことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自分の目標をレポートに落とししてもらい、到達できる支援をしている。しかし、まだ充分とは言えない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少ない職員体制の中で、外部研修、内部（職員会議中）研修等の学ぶ機会を持たせたいと考え努力している。まだ充分とは言えない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の質の向上と交流を兼ね、学ぶ機会を意図的にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉を、しっかりと聞き、ゆっくりと時間を共有しながら、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の段階から、ご家族の思いを受けとめ、くじら雲として何が出来るか話し合い、誠実に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始と同時進行で、必要としている事を把握していくよう努めている。必要であれば他のサービスとの連携を取る。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや、盛り付けなど、ご本人が出来る事を、お願いしている。経験されたことについて、教えてもらうことも、たくさんある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	くじら雲での、ご様子を伝え、暮らしの中で、出来る事の提案を伝え、ご家族の力を引き出せるような支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や、送迎時に、挨拶はしっかり行い。相手の方との関係性が続くように努めている。	野球の好きな利用者が、以前係わっていた少年野球を見学しに行ったりしている。近くに有名な園芸店があり、通所の際に時々立ち寄って、利用者の馴染みの店となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入ることで、円滑に関わりが持てる様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了された方の、ご家族と会った時、ご様子を伺うなど、挨拶をする。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで話を聴いたり、ご家族からご本人の生活歴などを伺い、各々の思いの把握に努めている。	職員は、利用者との意思の疎通に努め、意向や思いを把握して自らの意思で行動することを支援している。棚の作成・補修などの大工仕事や包丁研ぎ、喫茶店を運営していた方にコーヒーを入れてもらうなど、それぞれの利用者が得意なことを依頼している。利用者が、生き生きと毎日を過ごしていることが見て取れた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、お話を伺い、それをもとに、会話を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子の変化を、職員で共有してケアに活かしている。その方の持てる力を発揮してもらええる支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問時や送迎時などに家族から日々の困りごとなどを聴くようにしている。本人の様子の変化に合わせ、ケアマネジャー、担当の職員が中心となり作成している。	ケアプランは、アセスメントを基に課題を抽出し短期目標と援助項目を設定している。利用者ごとの介護記録にプランの目標が記載され、職員は目標に沿った援助の記録を付けている。介護記録には訪問・通い・泊まりが一括して記録され、計画作成担当者はサービス全体のモニタリングを実施している。プランの見直しは6か月ごと、または随時行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を基に、朝のミーティングで情報を共有して、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、緊急での訪問や宿泊、通いなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の馴染みの床屋に協力を頂き利用したり、送迎時に近隣の方々と話をして理解、協力を得られるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況を伝えたり、受診に職員が付き添うなどしている。	以前からのかかりつけ医への通院は家族が対応している。診療情報は家族から聞き取ったり、診療記録をもらって把握している。協力医療機関から、医療面でのアドバイスを受けたり、講演会に参加したりしている。契約時に緊急時の対応について同意を得て、主治医の不在時の緊急対応を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化を伝えたり、また訪問時の利用者の変化を教えてもらうなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中に面会に行ったり、退院に向け病院から情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では十分にできていない。今後の課題である。	本体事業所は看取りを実施しているが、サテライトでは現時点では看取りの事例はない。利用者の重度化により家族・本人が看取りを希望した場合は、事業所、かかりつけ医、家族などが話し合っ得て同意を得て方針を決め、本体事業所のひつじ雲と連携して可能な限り支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は不十分であり、今後の課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確認、避難訓練の実施をしており、近隣住民とも日ごろからコミュニケーションを取るようになっている。	防災対策は、年2回、日中の火災発生想定で自主避難訓練や消防署から借り受けた水消火器訓練を行っている。前回訓練では、参加者は利用者3名、スタッフ4名であった。地域住民に参加を呼び掛けている。災害備蓄は飲料水・米や缶詰などを数日分保有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴介助時にはタオルをかけるなど配慮している。言葉がけについては、職員同士が指摘し合い、注意するようにしている。	本人の羞恥心などに配慮して、入浴・排泄は原則として同性介助である。リビングに置いてある「排泄チェックシート」は、目に触れないように裏返しにしていた。送迎時に屋外で利用者について話をしないようにしている。個人情報を含む書類は事務室の書棚で施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外に出たいなど、利用者のやりたいことを実現できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせて、過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりや習慣を理解し、大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやおやつ作りを一緒におこなっている。同じ食卓で一緒に食事をしている。	献立は栄養士が作成し、調理も行っている。野菜は業者に届けてもらい、他の食材は利用者と職員と一緒に買いに行っている。状況によってトロミ食を提供している。だしや香味野菜で味や塩分を調整をしている。職員は、利用者と同席して同じものを食べ、必要に応じ介助を行っている。盛り付けを手伝っている利用者がいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた食事量、水分が十分に摂れるよう配慮している。必要に応じ、介助をおこない十分に摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きをしている。状態に応じ、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレにお誘いし、トイレで排泄ができるようにしている。排泄チェックをおこない、排泄パターンの把握に努めている	排泄パターンを把握して、さりげなく声かけや誘導をしている。トイレ内にカーテンを設置して、外から見えないようにしている。男性用小便器を設置して男性が気軽に行けるように配慮している。自宅ではトイレに行けなかった利用者が、通いの際にきめ細かく誘導し、行けるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、食事量の確認、適度な運動をし、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の状況や希望に合わせて入浴している。個別での入浴のため、職員とコミュニケーションを取りながら行っている。	浴室は2階にあり、車椅子の利用者などはリビングから2階に通じる昇降機を使っている。入浴は利用者の希望に応じており、体調によってシャワー浴や足湯に切り替える場合もある。室温を調節してヒートショック対策をしている。湯はかけ流しにしている。菖蒲湯や柚子湯で季節を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて昼寝をしたり、休みやすい環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをもらい、薬の把握をし、服薬の管理、介助をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな場所への外出や、趣味活動を一緒におこなっている。以前に仕事にしていた包丁研ぎをして下さる利用者もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中で「電車に乗りたい」と言う利用者の希望を叶えるために家族と協力し、外出計画をたてて外出したりしている。地域の人の協力を得られるところまでは至っていない。	天候が良ければ、散歩を兼ねて買い物に出かけている。駅の近くまで買い物に行ったこともある。近くの鶴見川堤防へ散歩に行っている。車椅子の方にも対応している。末吉橋付近のショッピングセンターに出かけ、ゆっくりとショッピングしたりお茶を飲んだりして帰ってくることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じ、家族と話し合いの上、持参している利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現時点ではできていない。今後、取り組んでいく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしたり、明るさ、温度などが適切になるよう配慮している。	民家をリフォームした共用空間で、採光が良く明るく、清掃が行き届いている。木張りの床が温かみを感じさせる。訪問時に男性の利用者と職員が、お茶を飲みながら和やかに談笑していた。壁には利用者と職員の共同作品が飾られている。天気の良い日は窓から富士山が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じ、個室を利用したり、利用者同士の相性、関係性を考慮し席の配置の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での習慣が続けられるよう、ベッドや布団を用意し対応している。	泊まりの部屋は個室で、防炎カーテン、空調機器、照明器具、ベッド、収納設備が常備されている。テレビを置いた部屋もあるため、利用者は、泊まりの際には着替えや洗面用具、腕時計など身の回りの物を持参すればよい。場合によっては本体事業所に泊まることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自由に動き回ることができるよう、物品の整理などに配慮している。利用者に合わせてわかりやすい表示をするなど工夫している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名           サテライト くじら雲          

作成日           平成27年 6月24日          

### 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議について、利用者のご家族が勤めをもっていたり、虚弱高齢者の場合が多く、参加出来ない方々からの評価や要望、助言を聞くまでに至っていない。	ご家族が参加できる工夫をし、事業所の評価を受け、運営に関する助言や要望を聞く機会となるような会議の場にしていく。	利用者宅と事業所の距離があり、ご家族の参加が難しく、推進会議での意見の集約ができていないため、参加していただけない方には送迎を行ったり、参加いただけないご家族には、取り組み等に対する意見を年に数度、文書にしていたくなどの働きかけをしていく。	平成27年 度中
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。